

地域と時を紡ぐ人々

連綿と受け継がれる
地域の伝統や芸能、自然などを次代に継承する方々を、広報たかやまではシリーズで紹介していきます。

第十一章

57年ぶり「飛驒の大祭」に臨む

人の心を奮い立たせ、郷土の繁栄を祈願するために安永8年（1779）、飛驒国中の神社を招いたのが発祥とされます。

この57年ぶりの大祭を取り仕切る総裁が三木信之（71）さんです。

平成29年5月3日から6日まで飛驒一宮水無神社で営まれる「飛驒の大祭」。昭和35年以来、実に57年ぶりとなります。

飛驒の大祭とは、安永2年（1773）の大原騒動で荒廃した社殿の大造営を終え、疲弊した飛驒

「前回の大会時は高校生でした。自宅が勅使の宿というところもあり、毎日が大変な賑わいだったことを覚えています」と当時を

振り返る三木さん。

勅使齋館
勅使御宿舎



昭和35年の式年大祭で勅使が宿としたことを示す高札と三木さん（自宅で）



式年大祭の開催を告げる高札除幕式（同神社前、平成26年11月23日）

同神社の神主ともゆかりのある三木さんにとって、大祭への思いはひとしおです。開催を告げる高札除幕式で「この出発点に際して、飛驒中の神社の協力を得て、何としても成功できるよう、皆様と一丸になつて進めていきたい」とあいさつしました。

「連綿と受け継がれる歴史や伝統を、次のまた次の世代へきちんと受け継ぐことこそ、今の世を預かる私たちの責務——穏やかな表情の内側に秘める三木さんの熱い意気込み。飛驒の大祭まであと2年です。

広報
市長だより
36

文化をたつとび
伝統を生かし

高山市長 國島芳明

私たちのふるさとには、歴史的にも社会的にも価値のある有形無形の伝統文化や文化財が数多くあります。それらの保護や継承を制度化するため、就任以後、美しいふるさと認証制度や名匠認定制度を創設させていただきました。また、市民が主役の新しい文化芸術を創生するため、飛驒高山文化芸術祭も立ち上がりました。

しかしながら、制度の創設や予算化だけでは、伝統文化や芸術を保護・継承・振興することにはつながりません。制度化は手段であつて目標の達成には、もう一つ大切なことがあります。それは、人々の熱い心です。

上述の連載の三木信之さんは、57年という長き時を経て「飛驒の大祭」に臨まれます。三木さんをはじめ、携わられる皆様の伝統を残そうとする熱い心と御苦労を察するに、ただただ頭を垂れるのみです。市民憲章にうたつてある「文化をたつとび、伝統を生かし」——言うは易く行うは難し。伝統を守ること、新しい文化を創ること、そのいずれも、人々の熱い心が原動力になっていることに刮目せずにはいられません。

市長室へようこそ

●市民と市長の面談日

1月30日(金)

午前9時～11時45分

※事前にご予約ください



また、始業前の時間も市役所の市長室を「市民と市長の対話の場」として開放しています。お気軽にお越しください。

●開放時間

午前7時～8時30分まで

※出張や特別な行事がある場合は除きます。
※市ホームページで市長の週間スケジュールを公開しています。

市長室直通FAXもご利用ください
FAX●32-7000

問合先 秘書課 ☎35-3130

ケーブルテレビの番組「ハイ、市長です」はインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.city.takayama.lg.jp/net-tv/index.html>